

とっても心が温かい台湾の皆さん（平成29年4月）

近年交流が進展している台湾を対象に、この度初めて「台湾スタディツアー」を実施しました。期間は3月中旬～下旬の8日間で、プログラム内容は以下の通りでした。

【交流大学を訪問して授業参観・学生交流 ほか】

〈雲林科技大学〉 英語授業参加、前年7月来学の学生等と昼食を取りながら懇談
図書館・芸術センター・デザイン学部演習室等の見学 等

〈淡江大学〉 日本語授業参加、前年7月来学の学生等と昼食を取りながら懇談 等

【「1日バス旅行」による雲林科技大学の学生（約25名）との交流等】

- ・地域の学習（木工工房訪問、手漉きの紙づくり体験）、昼食を取りながらの懇談
- ・景勝地の訪問（日月潭、玄光寺） 等

【地域視察と文化研修】

〈雲林県〉 ・タオル工場の訪問、古い街並みの見学と醤油工場の訪問
・故宮博物院（南院）の視察

〈台北市〉 ・中正紀念堂の視察



【台北市での岡山県企業等の訪問】

- ・源吉兆庵台北本店（業務概要や台湾の特色等についての特別レクチャー）
- ・新光三越デパート南西店（日本からの輸入食料品の見学等）

【ホームステイ（雲林県で2泊、台北市で2泊）】

- ・観光地の訪問、夜市の見学、外食、ショッピング、懇談 など

また、参加した学生の感想は、次のようなものでした。

- 気軽に話しかけてくれたり、写真を撮ってくれたり、困っているといろいろと教えてくれたり、明るく親切な学生が多かった。学生との触れ合いが一番楽しく、もっと交流したかった。
- 「英語を覚えるため」の日本の授業と違い、台湾では「英語を使って何かを学ぶ」というスタイルが多いようで、語学力が無理なく向上していきたく感じました。
- 木工・タオル・醤油など様々な小規模工場を見学したが、伝承することの大切さと、新たなことに挑戦する重要性を、同時に学ぶことができた。
- ホームステイでは、実際の暮らしぶりが体験できて多くの発見があったし、ホストが台湾の歴史や文化などたくさん教えてくれたことから、とても勉強になった。
- 日本人だと分かる歓迎してくれるなど、温かい人が多くて、とても嬉しかった。
- 台湾の人は、アニメ等の日本の文化や日本食、そして日本人にとっても良いイメージを持っていることが分かった。それらが続くよう、一人の日本人として自分も努力していきたい。
- 日本以上に車社会なのに事故や渋滞を見掛けなかったことと、列車の利用マナーが良かったことに驚いた。

この台湾スタディツアーの企画・実施に当たり、あらためて実感したのが、台湾の皆さんの温かい思いやりの心でした。本学のもうひとつの学生研修グループと一緒に、まずは南西部の雲林県に入ることになったのですが、北部の台北桃園空港まで、大学職員の方がわざわざ、我々一行13名を専用車で出迎えに来てくださいました。雲林県までは3時間ほど、夕方に到着するとすぐさま歓迎会を開いてくださり、台湾ならではの野菜や海鮮、お肉などで歓待いただきました。翌日は、大勢の台湾の学生さんと一緒にバス旅行を楽しみましたが、訪問先それぞれで、本学学生に対してもいろいろと気遣っていただきました。夕食後の帰路、車内ではカラオケ大会が始まり、双方の若者の楽しい笑い声が溢れました。

3日目からも、前年に本学での日本語研修に参加してもらった学生さんを中心に、要所でエスコートしていただき、初めての土地で心細かったに違いない本学学生に、温かい手を差し伸べていただいたことから、本当に楽しく実りある研修になったと思います。

こうした台湾との交流を、今後も充実発展させていきたいと願っています。